

あられる場 広がる場 生活空間の重なり

指導教員 吉松秀樹教授 印

7AEB3230 藤田江里子

1. 問題意識 日本家屋への愛着

私は21年間日本家屋に住んでいる。お祭りや祝いごとなど、街で行われる行事を大切にし、人に会う時間と「楽しみ」や「感動」の多く、温かく好きである (Fig.1 Fig.2)。

暮らしに合わせて空間が自在にあらわれたりなくなったりするところは身体にしっくりきて、自分と建築、建築と街が近いように感じる。どのように家の中に自在な空間ができていくのだろうか。



Fig.1 お正月

Fig.2 夏祭り

2. 例 ハレとケの空間の「楽しみ」と「感動」

ハレ（特別な日）とケ（普段の日）は日本農家に多い世界観が私の家にはある。ハレ空間は間戸（襖 障子ガラス戸）を開け、空間を連ねてそこで広く行事を行う。客寄せ (Fig.3-①)・しし舞の通り道 (Fig.3-②)・豆まき (Fig.3)・餅つき (Fig.3-③)・結婚式と葬儀 (Fig.3-④) 空間があらわれる。ケ空間は朝昼は間戸を開け自由に生活をし、夜は間戸を閉めて個室があらわれる (Fig.4)。それらは戻り、なくなる。

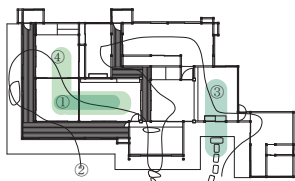


Fig.3 ハレ空間

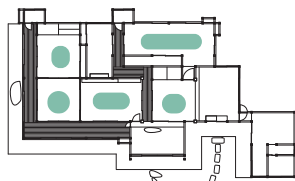


Fig.4 ケ空間

生活空間の重なり

自在な場は間戸を開閉し、生活空間同士が重なり合い場があらわれたりなくなったりする (Fig.5)。人を思いやるなど、人と人の気持ちを調節する温かさも生まれる (Fig.6)。



Fig.5 生活空間の重なり

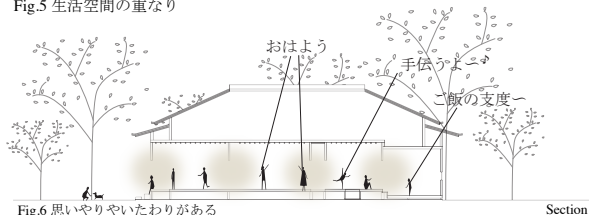


Fig.6 思いやりやいたわりがある

Section

4. 提案 重なりで場をつくる

個々の生活空間を幾重にも重ね合わせる。平面と断面で空間が混じり合い、自在な場ができる (Fig.7)。

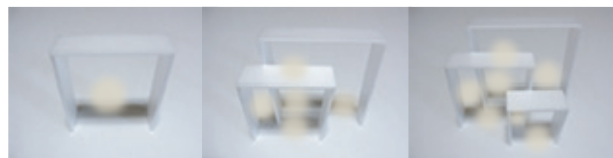


Fig.7 重なり合う空間

5. 設計 狭い場と広い場

住宅を2つのパートに分け、家の中に全く違う場所をつくる (Fig.8)。

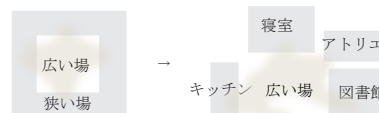
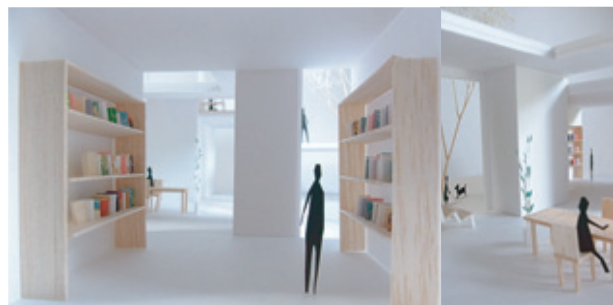


Fig.8 2つのパートを重ね合わせる

ときには互いの場が混じり合い、広く使っても狭く使っても良い。広い場は、寝室であり図書室でありアトリエでありキッチンでありダイニングであり庭である。



模型写真

この家の生活風景はあちらこちらに人があられる。生活空間の重なりは人と人、人と建築の関係を調節し、人の心に温かさを与える (Fig.9)。それは、「住む」ことや「住む場所」の楽しさとなる。

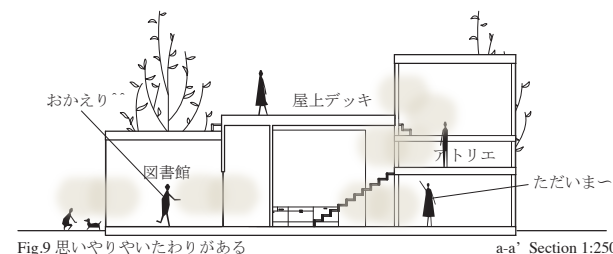


Fig.9 思いやりやいたわりがある

a-a' Section 1:250

